

災害に備えて ～防災・減災～

新型コロナウイルス感染に対する予防や新しい生活様式が求められる中、災害時の避難場所や避難所での感染予防をどうするかということが新たな課題となっています。地震や津波はいつ起きるかわかりませんが、大雨による河川の氾濫についてはある程度予測することができます。これからの梅雨や台風に伴う大雨についての備えが必要です。

今回の表題に「防災」と「減災」と書きましたが、災害が発生しないように行う取り組みを防災といい、災害が発生したときに、その被害を最小限に食い止めるための取り組みを減災といいます。

では、「災害に備える」とは、具体的にどういうことをすれば良いのでしょうか。

まず、自分たちの住んでいる地域の避難場所や浸水域を知ることです。そのためにはハザードマップを確認をしましょう。有田市のホームページに「津波」と「洪水」の2種類のハザードマップが掲載されています。地図の面には浸水域が色分けされています。啓発面にはインターネットによる情報入手先、いざというときの連絡先、災害用伝言サービスの使い方、非常持出品・備蓄品の一覧、地震被害を防ぐポイントなどが掲載されています。

また、有田市では、各学校に災害用の備蓄品として非常食、水、毛布、発電機、マットなどを保管しています。非常食の中には賞味期限が近くなってきているものがあります。これらを使った実習を学校で実施したかったのですが、新型コロナウイルス感染拡大のリスク防止のため実習をすることが難しくなってきました。そこで、生徒の皆さんに持って帰ってもらい、この非常食を作って食べながら防災や減災についてご家庭で話し合ってもらおう機会にしたいと考えています。

種類は選べませんが3個ずつ持ち帰ってもらいます。賞味期限の近いものがあるのでよく確認してください。お湯で15分、水でもできます(60分)。お茶碗に約2杯分です。おうちで話し合ったことを聞かせてくれるとうれしいです。(ちなみに、カップ麺も水を入れて30～60分ほどで食べられるようになると聞いたことがあります。試したことはないのですが…)

